

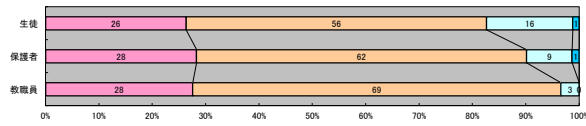
# 平成29年度 学校評価アンケートのまとめ

一迫商業高等学校

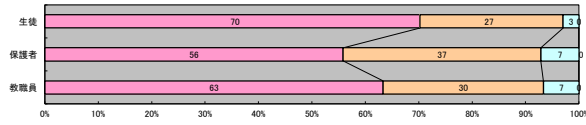


## I 宮城県公立高等学校共通項目

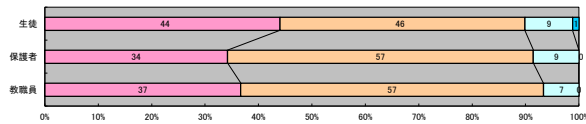
1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）



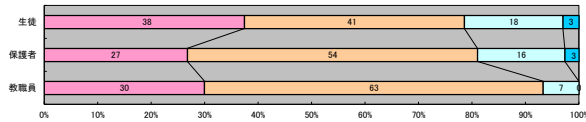
2 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）



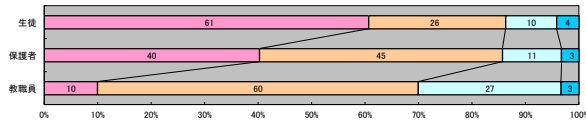
3 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）



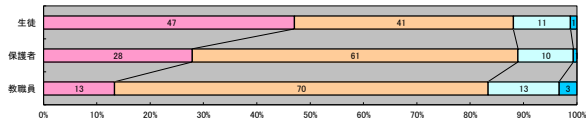
4 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）



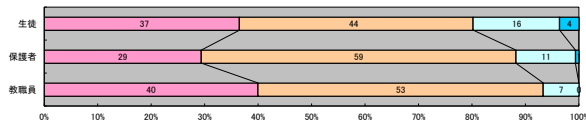
5 部活動は活発に行われている（部活動）



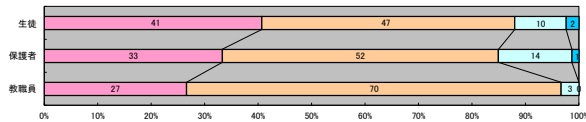
6 生徒会活動は活発に行われている（生徒会活動）



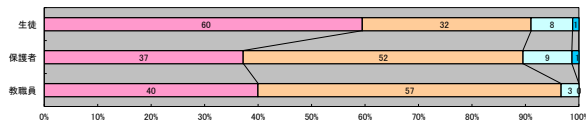
7 有意義な学校行事がある（学校行事）



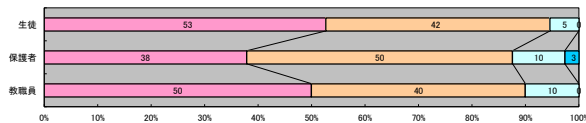
8 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）



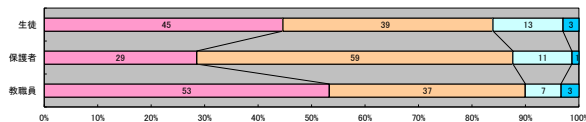
9 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）



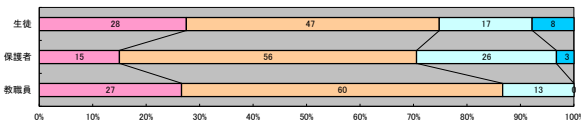
10 学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）



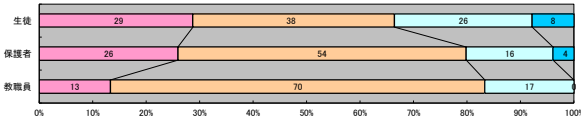
11 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設設備）



12 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題・生徒）  
学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている（いじめ問題・保護者・職員）



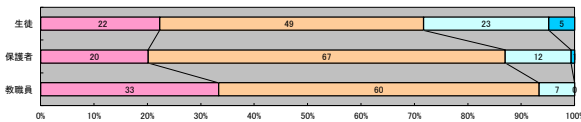
13 学校生活は充実している（総合満足度）



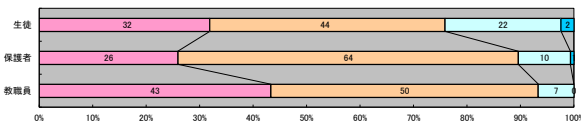
生徒・保護者・教職員ともに前年度に比べて全般的に評価が上昇している項目が多い。しかし、教職員、保護者ともに上昇している項目に対して生徒で低下している項目や高いレベルを維持しつつも低下している項目、上昇しているもポイント自体が他に比べて低い項目については注意したい。生徒による評価で前年度と比較して上昇している上位3項目は「1 授業」82.6(+5.3)、「7 有意義な学校行事」80.2(+6.4)、「13 学校生活充実」66.5(+8.1)であった。過去2年間と比較して高かったのは「5 部活動」86.3、「11 施設設備」83.9である。一方、昨年度と比較して低下している項目は4項目であり、「3 進路目標明確化」89.9(-4.2)で、「4 相談体制」78.6(-13.1)、「12 いじめ早期発見」74.9(-0.7)となっている。保護者による評価は大きく変化していないが、前年度に比べて1項目以外、全て上昇している。過去2年間と比較して高いのは「1 授業」90.1、「6 生徒会活動」89.0、「9 災害・非常時避難連絡」89.5、「10 学校情報」87.6、「12 いじめ取組共有」70.6となっている。教職員による評価は前年度と比較して10ポイント以上上昇している項目は「1 授業」96.6、「5 部活動」70.0、「12 いじめ取組共有」86.7、「13 学校生活充実」83.3となっており、過去2年間と比較して低下傾向にあるのは「2 挨拶やマナー」93.3、「6 生徒会活動」83.3となっている。本校が大事にしてきた挨拶やマナー等の指導は常に全項目の中で高い評価(三者ともに90.0以上)であり、今後も自信を持って進め、この好状況を踏まえて「当たり前」の質を高めたい。また、「基礎学力の養成」と「わかる授業」を重点目標としているが、それが生徒、保護者にも浸透してきていることが窺えることから、今後も継続的な授業改善を実践し、「ユニバーサルデザイン」の手法を取り入れた主体的な学びを進めていきたい。項目間の関連で注意が必要と考えられるのは「相談」に関する生徒の評価の低さとそれに関係する「進路目標の明確化」「いじめ」に関するものである。相談体制自体は前年度までと同様に行われているが、傾聴し、引き出すという意味でのきめ細やかな相談機会を捉えていく必要がある。また、全体を通じて指導の定着と生徒の学校生活の満足度を上げるためにも、常に、「意義」「意味」を大事にした一貫性のある指導を意識する必要がある。生徒会活動と部活動の活性化は生徒の学校生活の充実に向けて常に課題としたい。

## II 教育方針と学校経営

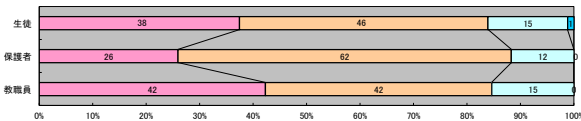
1 本校の教育方針や指導目標は分かりやすく共感できる



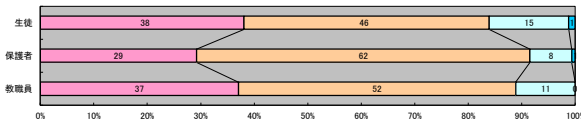
2 本校は、協調と奉仕の精神をもって誠実に責任を果たす生徒を育てようとしている



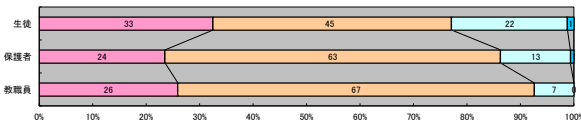
3 本校は、自主的で逞しい実践力のある生徒を育てようとしている



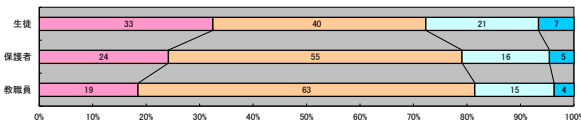
4 本校は、技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める生徒を育てようとしている



5 本校は、豊かな情操と高い道徳心のある生徒を育てようとしている



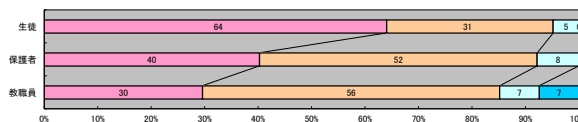
6 全職員が一致団結して教育活動にあたっている



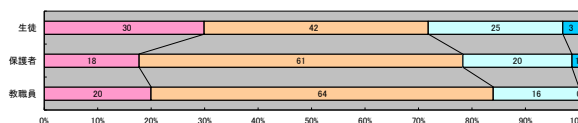
生徒の評価では「1 教育方針や指導目標が分かりやすく共感できる」71.7、「6 全職員が一致団結して教育活動にあたっている」72.3で前年度と比較して上昇し、「3 自主的で逞しい実践力のある生徒を育てようとしている」と「4 技能を習得し、勤労を重んじ、進んで創意工夫に努める生徒を育てようとしている」は80ポイントを超えている。保護者の評価は前年度に比べて全般に上昇しており、6項目中5項目で80.0ポイントを超えている。生徒、教職員の評価が10ポイント以上上昇しているのは「6 全職員が一致団結して教育活動にあたっている」79.1は生徒の評価よりも高いものの唯一低下している。教職員の評価では全般に過去2年間と比較して高水準もしくは高まっている。しかし、「6 全職員が一致団結して教育活動にあたっている」81.5は過去2年間と比較しても高くなっているが、「全く当てはまらない」の回答もある。本校の教育目標の意味や重点指導を意識し、そのもとで一致した協働による指導を丁寧に進めるとともに、「挨拶やマナー」・「資格取得」・「地域と結びついた取組」を核として3年間を見通した指導を進めたい。

### Ⅲ 基礎学力の充実向上

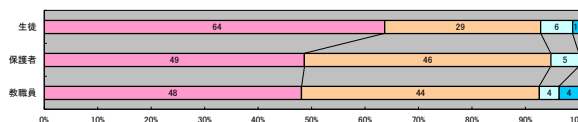
1 本校では、授業日数や時間は十分に確保されている



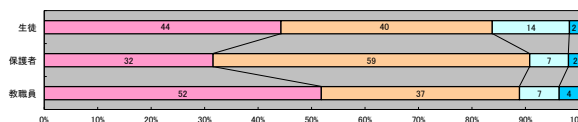
2 本校の先生は、生徒に授業後や週末によく宿題を出している



3 本校では、基礎学力の向上や検定取得に向けて課外や補習などを充分に実施している



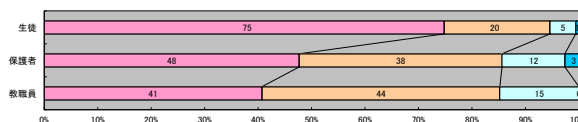
4 本校の学習環境は整っている



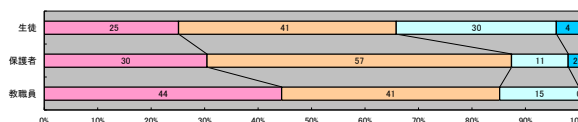
昨年度より数値はよくなっている。またほとんどの項目で「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」合わせて8割を超えている。唯一「2、本校の先生は生徒に授業後や週末によく宿題を出している」項目については生徒と保護者が「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が2割を超えている。理由として考えられるのは、宿題を家でなく学校でとりくみ保護者に取り組んでいる姿がみえないのではないかとと思われる。また生徒が与えられた課題をきちんと宿題だと認知していない、あるいは宿題の内容について生徒が物足りなさを感じているのではないかと考えられる。今後は宿題に関する指示を徹底するとともに、内容をより精査し、生徒の理解状況に沿った宿題を検討する必要がある。

### Ⅳ 規律ある生活習慣の確立

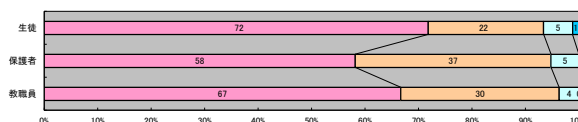
1 本校の生徒は、よくあいさつをする



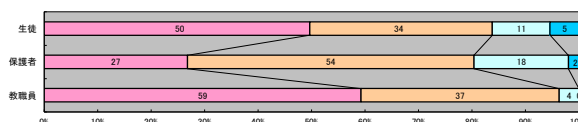
2 本校の生徒は、欠席・遅刻・早退が少ない



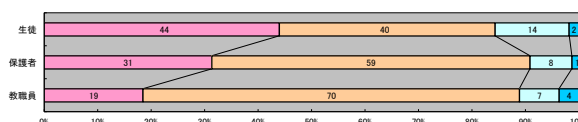
3 本校では、生徒の生活（頭髪や服装を含む）指導を厳しく適切に行っている



4 本校では、いじめや差別を許さず厳しく対応している



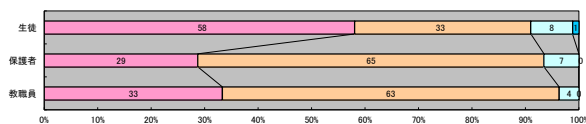
5 本校は、清掃などが徹底されて、きれいで整理されている



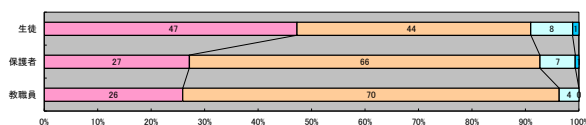
ほとんどの項目で「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」合わせて8割を超えている。本校生徒が概ね規律ある生活を送ることができていると、生徒自身、保護者、教職員が感じていると読み取れる。しかし、前年と比べて評価が下がっている項目もあり、生徒指導に努力していかなければならないと考える。欠席・遅刻・早退に関する評価は、生徒、教職員が下がっている。生徒に関しては、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」を合わせても6割5分程度の低さである。基本的な生活習慣について指導をしていかなければならないと考える。

## V 自主的な進路設計とその実現

1 本校では、生徒に適切な進路情報を提供している



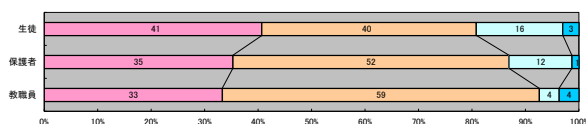
2 本校では、生徒が希望する進路を達成をしている



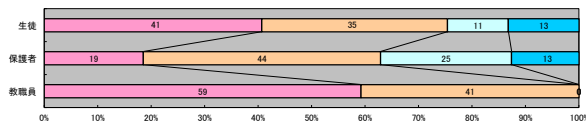
「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の結果から、1の「進路情報の提供」については生徒、保護者とも90%を上回る結果となった。進路情報について生徒・保護者に向けて発信できた。2の「希望する進路の達成」についても生徒、保護者ともに90%を上回っている。生徒と保護者の望む進路達成の考えがほぼ一致していると推測される。今後、進路行事の精選と検証を進めると同時に、保護者との連携を密にし、入学時から進路を視野に入れた指導を重ね、教員と生徒、保護者が齟齬をきたさないよう取り組み早期離職をなくすことを目的に指導をすすめていきたい。

## VI その他

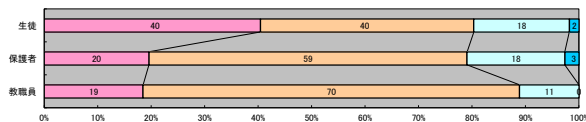
1 本校の職員は、礼儀正しく親切に対応してくれている



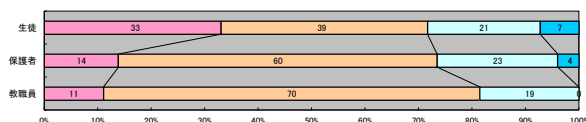
2 本校が実施している栗原版デュアルシステムは知っている



3 本校は、各種のボランティア活動を積極的に行っている



4 本校のホームページは、内容が充実している



昨年度よりも各項目で「当てはまる」のポイントが上昇した。項目1では、生徒・保護者の8割以上が教職員の対応に満足していた。しかし教職員のポイントと大きな差があり、生徒・保護者の捉え方と教職員の捉え方に違いがあることが推察される。項目2では、栗原版デュアルシステムに対する保護者の認知度が6割であった。今後継続して、授業の取組内容を保護者に向けて情報発信していく必要がある。項目3では、生徒・保護者・教職員のポイントが前年度よりも5ポイント以上上昇しており、本校はボランティア活動を積極的に行っていると認知されていた。活動後に発表などを通じて情報発信、情報共有を図ったことが要因であると思われる。項目4では、7割を超える生徒・保護者がホームページの内容に満足しており、概ね良好であった。今後もホームページのみならず様々な媒体を通じて情報の発信・共有をしていく必要がある。